

世界の中の日本を 徳島で考え、「地球市民」として 自分にできる国際協力を実践。

TICOは、保健医療、農村開発などの分野で、アフリカやアジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人。TICOの代表である吉田修氏は、徳島県吉野川市にあるさくら診療所の理事長を務める外科医だ。徳島県を本拠地に、現在、ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を実施し、今年の11月には活動17年目を迎える。

ザンビアで繰り広げられる さまざまな活動

TICOの前身は、1993年11月に発足した「徳島で国際協力を考える会」。世界の中の日本を徳島で考え、それぞれが「地球市民」として自分にできる国際協力を実践することを目的に設立された。

現在の主な活動の地はザンビア。いったいどんな活動をしているのか、具体的な内容を紹介しよう。

■有用樹木普及事業 (アグロフォレストリー)

ザンビアでは化学肥料の多用により地力が低下する一方で、貧困農家は化学肥料が買えず、農作物の収量が低下している。そこでTICOは、チベンビ農業大学と提携し、有用樹木の普及の実施を決定。地中に窒素固定を行うマメ科樹木を植えることで地力の回復を図るところから始め、現在では単一作物偏重回避と食の多様化を推進するため、輪作も進めている。

最初は、作物が実るまでに時間がかかること、マメ科樹木を植えることにより耕作地が一時的に減少するなどのマイナス面も

あり、いくら効果的なシステムであっても住民の理解を得るのにかなり苦労したという。しかし、奮闘努力の結果、2003年8人のメンバーで始まったプロジェクトは、2009年には100名を越える大所帯となっているようだ。



アグロフォレストリー

■コミュニティスクール支援

干ばつに強い村の未来を担う子どもたちの教育は、たいへん重要だ。しかし、公立学校の数に限られており、定員オーバーで学校に通えない子どもたちが、ザンビアにはたくさんいる。地域の親たちは自分たちでコミュニティスクールを立ち上げて子どもたちに最低限の教育を受けさせようがんばっているが、国からの支援はなく、資

金もないため、教室、トイレ、黒板、机、椅子などの学校設備は粗末で不十分なのが現状。TICOは農村地域の教育現場の改善をめざし、コミュニティスクールのハード面での支援を行っている。



コミュニティスクールの子どもたち

■プライマリ・ヘルスケアプロジェクト

農村部では医療機関が十分に整備されていないため、保健医療へのアクセスが容易ではない(医療機関が遠いなど)。そのような地域の子どもとその母親の健康を守るためのプロジェクトでは、以下の4つを柱に活動をしている。

1. 最低限の医療を保障するヘルスポスト(簡易診療所)の建設
2. 住民保健ボランティア/栄養改善普及

